

# 「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ19号

2018年10月



クスサン (ヤマユガ科)

## 目次

- 1. 9月の活動報告 . . . . . 2～3
- 2. ムシプロだより . . . . . 4
- 3. 自然の愉しみ方 (秋) . . . . . 5～7
- 4. 事務局より . . . . . 8
- 今月の表紙 . . . . . 8

## 1. 9月22日（土）の活動報告

2018年第三回活動を9月22日（土）に行いました。

スタッフ2人を含めて7人が参加しました。

「花壇の整備」と「小さな秋（トンボ、水棲昆虫など）」を観察しました。

### ■ 花壇の整備

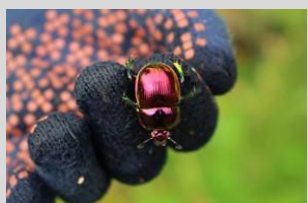
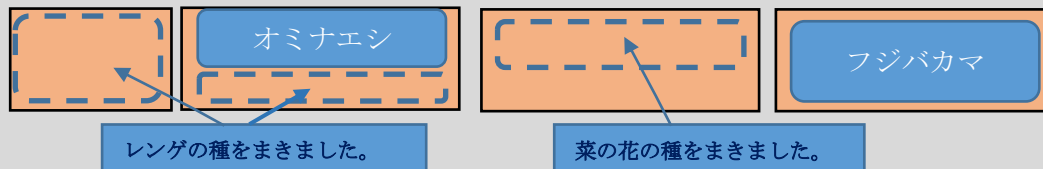
花壇の雑草取りとブッドレアの剪定を行いました。  
雑草取りは、活動のたびに実施しています。植物の成長の早さに驚かされます。



丁寧に雑草をとり、予定していた作業をこなしました。雑草が無くなった花壇に2月～5月に花が咲く「菜の花」と「レンゲ」の種を蒔きました。菜の花・レンゲは、花を楽しめるだけでなく花後、緑肥として花壇の土壌改善にも有効です。

11月の活動の時には、芽がどのくらい成長しているか確認します。とても楽しみです。

花壇及びビオトープ整備の様子  
校舎



■ 観察：『小さい秋を見つける（花壇・散策・ビオトープ）』

花壇では、ヒョウモンチョウなどのタテハチョウの仲間、オオカマキリを観察し、くまの木周辺で赤とんぼの採集、特に赤く色づいたミヤマアカネの美しさに盛り上がりました。最後にビオトープで恒例のガサガサを行いました。

観察の様子

花壇→くまの木周辺→ビオトープ



22日の画像は、以下のアドレスをクリックしてパスワードを入力してください。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/CVAL3gxyTsf>

パスワード：20180922

## 2. ムシプロだより



### ベニヒカゲ 吉田 義秀

「ミヤマモンキチョウ」と同じ長野県東御市の池の平湿原で8月に撮影した高山蝶です。

温暖化による影響なのか、低標高地ではどんどん見られなくなって来ています。

新潟県の苗場スキー場でも、ゴンドラを降りた所で5年前は、見られましたが今年は見られなかったようです。



←ミヤマモンキチョウ

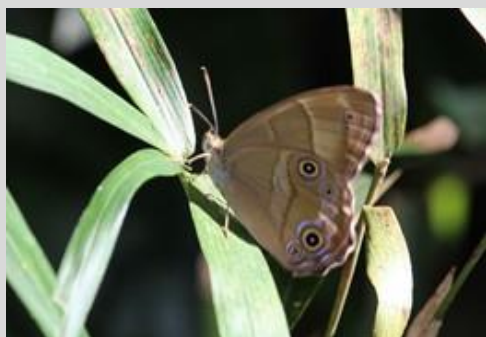
会報17号(8月)に掲載



### ホシホウジャク 熊谷 義昭

雨でできた水たまりの周りを旋回している一匹のホシホウジャクがいました。何度か旋回すると水面に勢いをつけて体を打ち付け、また旋回をするという行動を繰り返していました。体を冷やしているのでしょうか？水を飲んでいるとは思えませんが・・・。

写真はホシホウジャクが水面に体を打ち付け飛び上がったところです。



### ヒカゲチョウ 西野 孝法

薄暗いのでフラッシュを使ったところ、目玉模様の周りに紫色の線が浮かび上がりました。

蝶には、この紫色の線が見えているのかも知れませんね。

楽しみ方が一つ増えました！

皆様からの投稿をお待ちしております。題材は自由です。

どんどん送って下さい。お待ちしております。

### 3. 自然の楽しみ方（秋）

#### ● 秋の蛾：ヤママユガの仲間を楽しむ

秋のムシの代表として赤とんぼやコオロギなど鳴く虫が知られているが、秋の雑木林のスターとして蛾を紹介したい。特にヤママユガの仲間は、大型で成虫の迫力ある姿に加えて翅の模様や繭も個性的で見どころが多いのが特徴だ。灯りにもよく飛来するのでこれを機会にじっくりと観察してほしい。

<ヤママユガ科の特徴>

- ① 大きさ：大型
- ② 翅の模様：目玉模様がある、前翅の先端が蛇の横顔に見える種類がある
- ③ 翅の色：個体により違いがある
- ④ 口：退化して無い
- ⑤ 髭（触角）：櫛歯状
- ⑥ 蛹：繭をつくる
- ⑦ 幼虫：長い毛が生えている



ウスタビガの繭



ヒメヤママユの幼虫

<主なヤママユガ科の種類と発生時期>

種類		成虫の発生時期（参考） ※発生時期は地域によって異なります
ヤママユ (写真 熊谷 義昭)		8月～9月
クスサン		9月～10月
ヒメヤママユ (写真 大原 健)		9月～10月
クロウスタビガ (写真 大原 健)		9月～10月
ウスタビガ ※画像は、繭です		10月～11月

## ■ クスサン



翅を広げると大人の手のひらより大きい（約100ミリ）。茶色のグラデーション、色の境目は、波型。

前翅の目玉模様は、はっきりしない。



前翅の先端、蛇の横顔に見える。濃い茶色と赤い茶色の境目となる線の波型が美しい。



後翅を上にして見た目玉模様、鳥（猛禽）の顔に見える？目玉模様の目的はいまだに謎である。



繭。網目で「透かし俵」と呼ばれる。網目は、手では破ることが出来ないぐらい丈夫。



幼虫。白い毛がたくさんあることから「シラガタロウ」と呼ばれる。クリ、クヌギなどの葉を食べる。

## ■ ヤママユ



翅を広げると大人の手のひらより大きい（100ミリ以上）。

翅の色は、黄色が強いもの、赤が強いもの、茶色が強いものなど変異がある。



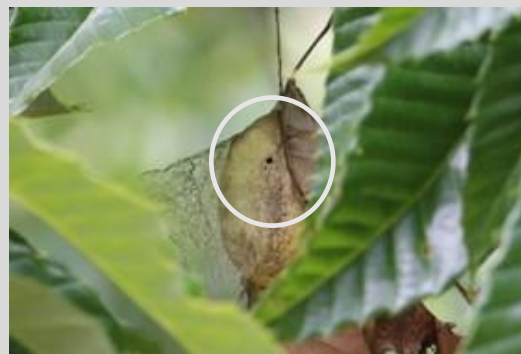
4枚の翅に一つずつ目玉模様がある。

目玉模様の中心は、透明。画像では背景の網戸が透けて見えている。

4枚の翅に真っすぐな線がある。



羽化後の繭、無事羽化したようだ。



羽化できなかった繭、寄生されたと思われる。側面に小さな穴が空いている。

1998年、井頭公園で元真岡市長から「子供のころ、雑木林に行ってヤママユの繭をとってきて、祖母にチョッキを編んでもらった。とても嬉しかった」と聞いた。ヤママユが「天蚕」と呼ばれる所以である。

#### 4. 事務局より

会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Wordに貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2018年10月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：[harukan@ac.auone-net.jp](mailto:harukan@ac.auone-net.jp)

#### 今月の表紙

#### クスサン (ヤママユガ科)



翅を広げると大人の手のひらほどもある大型の蛾である。9月に発生（羽化）する。

9月22日（土）のムシプロ活動中に会った。羽化直後で繭にぶら下がった状態を見るのは初めてで大興奮した（笑）。原稿を書いている現在でも未だ興奮が治まっていない。プロの昆虫写真家になった気分である。



私だけ一人で盛り上がっていたが、参加したメンバーは、冷静であった。以下そのエピソード。

参加メンバーが、家に帰って私の様子を報告した。

「クスサンに会って、西野さんもう大興奮だったんたよ。」

「え！くすさんって、誰？」



←夢中で、シャッターを切る、私。